

## 町政座談会（市木地区）

日 時 令和6年2月6日（木）  
18:30～20:00  
場 所 市木公民館

### 1. 町長あいさつ

皆さん、こんばんは。大変寒い時に集まっていただきまして、ありがとうございます。町長に就任させていただきまして、何とか毎年度、皆さんの元にかがって、声を聞かせていただければということで、町政座談会を企画しましたが、どうしてもこの時期しかなくて、一番寒い時期ですが何とかできればいいかなと思っています。昨日の田所は、雪のために中止しました。明日も最後の高原ですが、18日に延期させてもらいました。なかなか難しい時期でもありましたし、今日も非常に寒い中でこうやって出かけていただきまして、大変ありがとうございます。

各地区公民館単位でまわりまして、10カ所目になると思います。私たちにとっては、こうやって皆さんの元に出向いてお話を聞かせていただいて、大変良いと思っています。その一つは、町の課題であるとか、いろいろな問題に対して、公民館単位それぞれの地域や地区で、思いがすごく違うんだなということがわかりました。そういう声を聞きながら、また改めて考えないといけないことはたくさんあるかなと思います。

今日、少しお話をし、具体的に書いていますが、できれば極力、皆さんとお話をする時間をつくらせていただければと思っています。話の時間が短かったり、後で家に帰ってやっぱり聞きたかったなと思うことは、次第の下に町長への手紙ということでQRコードをつけています。お名前を書いていただかなくてもメールを送ることができます。今、何通か来ている中で、匿名の方もあります。その中に、この場の雰囲気良かったので、今まで思っていたけど言えなかったんだけど、メールだし書きやすいのでということで、何通かいただいております。また活用していただければと思います。

この自治会の皆さんからは毎年、町に対して様々な要望をいただいています。十分お応えできなかった部分があるんだと思います。疑問点等がありましたら、改めてこの場で聞いていただければ助かります。

町長就任から、今、ちょうど来年度予算を作成中です。非常に町が大変だなと思うのがお金云云より、まず国が予算を立てられて、県がされて、その後の町になるので、どうしても国とか県の流れが分かってから町の予算を組もうと思うと、最終的に行うのが2月になってしまう。3月には議会が開かれるので、本当に短い中で調整して、皆さんに対して示さなきゃいけないというのは大変だなと思っています。ただ、新年の職員さんに対してのあいさつでも、行政は年度区切りなので、今年度の事業はしっかり仕上げさせていただいて、併せて短い時間になりますが、来年度の予算もしっかりとって、4月には新年度の予算がすぐに動かせるように、まずそれをしないとずるずるいきますし。

最近、様々なところで話をしているのは、町の課題を来年度の予算を組んで最初にできないことは、次年度にしないといけない。8年度にしようと思うと、ものによっては、すぐ決断して皆さんに7月8月に示して、9月には議会にも方針を示さ

ないと、次の年度のことはできない。大きなことは変えられないということで、非常に町にとっても今年度から来年度になりまして、夏までは非常に慌ただしいのかなと思っています。

その慌ただしい原因が、やはり世の中が大きく変わることに対して、あまりに今まで町が対応できていなかった。今までが悪いというより、想定以上で。例えば、物価高もそうです。町にとっても電気代や光熱費の値上がりは非常に大きいですし、民間の方に対しての公共事業の予算についてもそうです。県は、積極的な財政を組みますと、福井県議の県政報告会でもいただいています。事業費を2割、3割増しにしないと、同じだけの仕事ができない。県が積極的にそこをカバーするというふうに出されると、必然的に町もついていけないといけなくて、町負担が増えるということで、そこをどうやって捻出するのか。人口が減る中で、皆さんの家もそうだと思います。例えば、年金が大きく増えるわけじゃない。所得や給料が大きく増えるわけじゃない中で、出ていく方は増えていく。そのやり繰りをどうするかだと思います。そのやり繰りの積み重ねの中で、どうしても表現は財政が厳しいですと言うと、大変だから何もかもしてもらえないとか、しわ寄せがあるんじゃないかということもあるんだと思います。やり繰りをして、できるなら今までどおりのことを続けたいと思っています。

ただ、一緒に考えてくださいという意味なんですけど、邑南町は何もかも無料にしてきた。副町長や教育長にも初めてする話ですが、最近ちょっと思ったことです。非常に、経費が上がる中で負担が増してくる。本当にいいのかなと思っています。例えば、皆さんが公民館を使われるときにほとんどお金は必要ないですが、維持費はどんどん上がってくる。保育料とか医療費についても、無償化してきたけど、その負担はどんどん増している。国からしていただけることはありますが、継続して将来にわたって、今以上のことを何かしたいと思ったときに、本当に今のままでいいのかなと。このまま町として住民サービスが続けられるのか。新しいことをするためにはどうすればいいのかということをしごく悩んでいます。新しいことという中に、社会の構造が変わる。

例えば、教育でいうと、今までは一つの教室にいた子どもが、その中にさまざまなお子さんがおられる。外国人の方もおられるようになりました。じゃあ、新しくサポートが必要だけど、その財源はどうするのか。学校に行きにくいお子さんに対してどういうサポートをしていくのか。一人一人に目を配ったときに、そのお金をどうしていくのか。これもすみません、統廃合の話が一緒というわけではないですが、新しい取り組み、新しい社会の変化に対して、どうするのかということに対して、非常にこれから苦慮しなきゃいけない。

そういう中で、今まで何もかも無料にしてきたけど、それが本当によかったのか。今さら変えられない制度もありますし、非常に難しいんですが、そのバランスと取らないと、これからサービスが続けられない時代になってくるかなと思います。

行財政改革とは言っていますが、やはり町として成り立つために、皆さんにサービスを続けていくためのやり繰りであって、まずは町の中の話であって、極力皆さんには直接的に負担が出ないようにとは思っています。負担の仕方というのもまたお願いの仕方については考えなきゃいけない時期がくるとは思いますが、まずは来年度予算をとっているところで、今進んでいるところです。

その他、少しお話をさせていただきますと、どうしてもどこの地域に行っても、本当は山の話がもう少し出てきてもいいかなと思いますが、関わる人の人数からい

くと農業の話が出てきます。米にしても野菜にしても、非常に高い値段で動いているので、そう思えば、もう少し積極手に取り組んでいただけるかと思ったんですが、規模を拡大するとか、新たに組み込んでいきたいというよりは、辞めるか縮小が多いのが現状です。

そういう中で、その原因ではないですが、やはり基盤整備であるとか、機械化であるとかという話も出てきます。もう少し基盤整備をしないと、よその人のところも受けにくい、新たに規模拡大はしにくい。新しい技術を入れたいというのがあるのかもしれない。道の駅もよくなりますので、そういう意味では、少し皆さんに意欲を持っていただいて、どうやって後押しをするか。生産量を維持するか。

つくる側の話をしますと、やはりこれだけ米が高く野菜が高く、買う方にとって大変なのは好ましいことではないので、まずつくられている方をしっかり支えて新たな動きができる仕組みを考えていかなければいけないと思っています。それに対して、皆さんに意見をいただきながら、アイデアをいただきながら、町としてそれが形にできればいいかなと思っています。

もう一つ、どこに行っても話が出るのは、人手不足です。人口の話になったときに、UターンとかIターンの定住の話になれば、まずこの町に企業誘致をしたらどうですかという話が出てきます。ただ、企業誘致ができないわけでもないし、チャンスがないわけでもないと思っていますが、地元の事業者さん、福祉施設でも人が足りないのに、企業を誘致したらどうなるのかというのはあります。まずは、地元の事業所さん、特に福祉施設、子どもの福祉施設もですし、高齢者の福祉施設もそうです。まずそこを何とかできないと、人手不足は解消できないし、それが今、勤めている人、特に若い人は仕事の負担が大きくなって、この町にいても住みにくくなる。そういう問題も出てくると思っています。

併せて、外国人労働者もかなり各事業所は、そこに頼るしかない状況です。その募集等については、各事業所でしていただくしかないと思うんですが、来られた人たちをどうサポートしていくかは、町の課題だと思っています。家族で来られればお子さんのサポートも必要です。今、制度がいろいろあるので、来られる方の日本語能力もさまざまだと思います。きちんとそこが対応できて、能力が上がって、長くいていただければ。そういうところは、町としてサポートできればと思っています。

併せまして、せっかく矢上高校があって、島根県立養護学校があって、皆さんも何らかの関わりがあって、話を聞かれるかと思いますが、町外の高校生やお子さんは決して多くないですが、県外や町外から来ていただいて定員はほぼ満たしています。そうすると、その子たちにもう少し、邑南町に戻っていただく、帰ってきていただく、もしくは一度来られてからそのまま残るなり、学校を出てまた来るといった仕組みをつくらなければいけないと思っています。やはり、高校振興でお金をかけていますので、その成果として次は子どもたちにといいところにつながればと思います。

どこの企業も今、自分ところの会社に来ればこういう人生が送れますというのを示しています。キャリアアップができますというのを示しています。そうすると、邑南町に住んで働けば、どういう生活が送れるのか、どういう仕事ができるのか。それに対して町がどういうバックアップをして、試験を受けたり、能力向上できるのかというのを示しながら、この町にというのをもっとアピールしていければと思います。まずは、関わっていただいた方がこの町を選んでいただければ、先々、U

ターンイターンというのも増えてくるのかなと思っています。その辺りを、今の課題としながら。

もう一つ、役場に入りまして、大きな課題だと思っているのは、組織が云云ではないんですが、先ほど言いましたような人手不足だとか、財政もそうです。大きな課題、地域課題に対してそれぞれの仕事では解決できない、皆が力を合わせるか協力しなければならない時代になっています。協力し合うということをどうするかというのをずっと考えていまして、今後取り組んでいくことに書いていますが、その一番下に、職員の副業と書いています。

公務員が副業をしていいかどうかということで否定的な意見もあると思うんですが、昔からそうだと思うんですが、制度的にきちんと許可をとってしていい仕事と、してはいけない仕事はルールで決まっていますので、していい仕事なら許可を受けて兼業することができます。お金をいただかなければ、地域の行事なり地域のお手伝いをするに何ら差し障りはないです。積極的にすべきところかもしれません。

まずは、地域に関心をもっといただく。そこで協力してもらおう。それがそのまま、役場の中でも、他の人の仕事に関心をもつ。もっとこうすれば良くなるんじゃないかということを積極期に思ってもらおう一つのきっかけにして、職員の副業をもう少し制度化するなり、考えられればと思っています。一人ではできないことを皆でというところのきっかけと思っています。

若干、今後取り組んでいくことについて、話をさせてください。小中学校の統廃合については、考えなきゃいけない時期にきています。今までの町長は、触れなかったんだけど、残しますと言われたけど、町長が代わって突然するのかということになるかもしれません。ただ現実には、全ての施設がよくて、さっき言ったマンパワーもたくさんあるのであれば、私も残したいと思いますが、現実にはそうではない。施設の改修もありますし、教育環境、支えるサポートの人たちの人数。併せまして、議員をしていて、わかっていなかったのかと言われそうですが、現実として数字で示されることがなかったので、そういうところを見れば、考えざるを得ない、考えなきゃいけない。

若干、数字だけ言いますと、今の小学生は邑南町内で一学年70人です。保育所は一学年50人になります。今、生まれているお子さんは、一年で40人いるかないかです。この数字を出して議論をすると、邑南町には小学校が一つか二つで、中学校も一つでいいよねという話になるので。決して、人数あわせで統廃合をするつもりはないです。この現実ではありますが、Uターンイターンの方もある可能性があるかもしれません。

それで、教育委員会には、教育の在り方として、子どもたち学びとしてどういう学校がいいのかという、ちょっと理想論です。もう一つは、地域みらい課に地域と学校の関わり方、教育の中において、地域とどう関わるべきか、どうあるべきか、そういう観点から学校の配置とか人口バランスを見た時に、どうすべきかという話を来年度にしようと思っています。私は私で、こうやって皆さんの顔を見てお話をしているので、私は私で考えます。それでその三者で話をして、思いが一致するかもしれないし、違うかもしれない。話をすれば、もっといいアイデアが出るかもしれない。まずはそういうことから、準備をしていかなきゃいけない、その時期がきたと思っていますので、させていただければと思っています。

その他につきまして、産業振興はできるだけ、まずは町内循環ということでしていきたいと思っています。それぞれの地区にお店が十分あるのかないかもしれませんが、

さくらカードがあって、邑南町の商品券を使うことによって、地元で買い物を増やすというところから支えていきたいという思いがあります。ずっと課題になっている日本一の子育て村の在り方も大きな課題だと思っています。何をもちょうど日本一の子育て村というのか、ご理解いただいているところと、どうなんだというところがあります。改めて議論をして皆さんと共有しながら応援していきたい。

先ほどちょっと出ました、全て無料がいいのかどうかも、やはりあるのかなと思います。福祉施設の在り方というのもあります。何となくイメージとして、邑南町は少子高齢化で、高齢者が増えているというイメージがありますが、現実的には、高齢化率、65歳以上の人の割合は45%でほぼ変わっていません。総人口が減っているの、65歳以上の人口は少しずつ減っています。ただ、長くお元気で生きておられるので、65歳以上は増えていると思われると思うんですが、現実若干違う。そういう中で、高齢者に対する福祉サービスをどう維持するかというのを町としても考えなきゃいけない。

併せて、生まれるお子さんが少なくなる以上、保育所の在り方も考えていかなきゃいけないので。それぞれの考える理由は、そこに携わる人も少ない。高齢者のサービスの量を確保するというのもありますが、質という意味でもマンパワーが足りなくなっていく現状を考えれば、少ない人数の中で多くの職種のある邑南町ではどうやって町内全体で人のやりくりをするかというのを考えないといけないときがきていると思っています。

そういうことを踏まえながら、一番最後に一つだけ話をさせてください。その他で書いてありますが、定期的な住民の会の開催と書いています。この本当に寒い時期にこうやって会を開催していただきましたが、言い方がちょっと難しいんですが、意外と参加していただいています。今日も寒いと思いますが、冬で6時過ぎると暗くなって、農作業があるわけじゃないので、ある意味出かけやすい時期かなと。これが夏とかだと農作業をされて汗かいて、シャワー浴びて間に合わないから行けなかったということも、議会のときには多々あったので、ある意味よかったかなと思います。

私たちは皆さんの声を聞かせていただきたいという大事な場です。今後も毎年、こういう会をしたいですし、形を変えて、女性とか男性を分けるとかもありますが、お仕事や年代とか、PTAの会に出向くなりして、極力、議論や話をさせていただきたいと思っています。

併せて、人が少なくなる中で、地域もそうですし、町もいろいろな役割があって、役が多すぎて人が足りないと言われる。頼める人がいないというのも現状です。こういう会を開きますと、初めて見る方であるとか、普段出られない方が出られたりすると、お互いに次はあの人に声をかけてみようかとか。あの人に頼めるかなというのがありますので、会議に出るのは嫌だなと思われる、出してもらえないんですが、人材発掘という面でも極力こういう会を開きながら、皆さんと顔を合わせて話ができればと思っています。

ちょっと長くなりましたが、まず私からの最初の話させていただきました。教育長の方からも少し話をさせていただきます。ありがとうございました。

## 2. 教育長あいさつ

改めましてこんばんは。教育委員会の大橋です。よろしく申し上げます。まずは

って、学校行事、運営、また公民館等を本当に支えていただいて順調に活動が行われている報告もいただいております。感謝申し上げます。ありがとうございます。

また、はっきりとお伝えできないんですけど、以前、市木小学校事務職と養護の先生の配置について、ご協力をいただいて、県まで上がって要望活動を実践させていただきました。何となく、明るい兆しが見えつつあるなというように私は実感しておりますので、またそういった報告ができればいいなと思っております。

また以前、市木市、私にとっても強烈なインパクトがありました。あの当時の小学生の発案が中学校になっても、その思いを遂げたいというところで、地域の皆さんに投げかけて、じゃあ一緒にやってやろうという協力体制が出来上がったというような実践も目の当たりにさせていただきました。そういった中で、本日お伝えいたしますコミュニティスクールについては、その延長線上にあるなと私自身は実感させていただいたところです。

早速ですが、そのコミュニティスクールにつきまして、少し話をさせていただきたいと思っております。全面印刷してある方を表にさせていただいて、その左側から説明させていただきたいと思っております。まずもって、このコミュニティスクールという制度は、令和8年度実施を目標に今後進めていきたいと考えております。令和7年度につきましては、その準備期間として、皆さんからご意見等をいただきながら熟議を重ね、市木らしいと言いますが、そういったものをつくり上げていきたいと思っております。

コミュニティスクールでございます。左の中程あたりにコミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校と位置づけられております。この協議会というのは一体何かということですが、今までは基本的に、市木市でもそうであります。学校発信のことを地域の皆さんがしっかりと受け止めていただいて、共に体現していく、形にしていくという姿があったと思っております。

この協議会をさらに充実させたものということで、右側の四角囲みの一番上をご覧ください。この協議会の一番の目玉となります。学校の経営目標、運営目標を地域の皆さんが承認していくという場面がこの協議会で新たに設けられます。位置づけられます。これが今までと大きな違いだろうと思っております。今までは、先ほど言いましたように学校長等の要望により、いろいろ地域の皆さんに協力いただく。あるいは、学校の運営についての評価をしていただくという作業は今もやっておりますけど、スタート時点の方針を地域の皆さんと共に決めていくというのが一番大きなところでございます。

そういった場面をとおして、次に見えるのは一体何かということですが、この時点で明らかに学校と地域が対等な立場でお互いの思いを共有していきながら、協働していくという姿が生まれてくるのではないかと考えております。

裏面をご覧ください。左の方に、メリットというふうに四角囲みで2つ掲載しています。上の方は学校のメリットとお考えいただければと思います。学校にとって地域と共にある学校づくりが今の命題になっております。文科省が示します学習指導要領等にも社会に開かれた教育課程、つまり今までは、学校完結型の教育を行って参りましたが、それではいけないということで、学校自らが社会と協働していくというようなところでのメリットを記載させていただきます。

一方、さらに想定されるのが、地域にとってはどうなのかということ、学校を核とした地域づくり。先ほど町長も申し上げましたが、教育の本質という部分と、地域との関係性という部分を来年度しっかり研究させていただきながら、一つの答

えを導き出していければと思っております。

最後です。邑南町のコミュニティスクールの範囲でございますが、全国的に見たとき、基本的に小学校単位でこの協議会をつくっていくというのが、本流だろうと思っておりますけど、邑南町の場合は、9年間を意識したいと思っております。小学校中学校の接続をしっかりとした上で、中学3年生義務教育をどのような力をつけて卒業していくかということで、小中の9年間を意識して参りたいと。そういう意味で、この協議会の大元になるものは中学校区でつくっていきたくて考えています。いずれにしても、今、協議会で制度設計させていただきましたけど、今後それ肉付けを皆さんと一緒に一年をかけてできればいいなと思っておりますので、その際にはいろいろとご意見をいただいて、充実したものを目指していきたくて思っておりますので、その節はよろしく願いいたします。以上でございます。

### 3. 意見交換

大賀総務課長 ありがとうございます。それではこの後、約一時間、皆さんとの意見交換の時間とさせていただきます。皆さまからご意見ご質問をいただきたいと思えます。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちしますので、少しお待ちいただきたいと思えます。ご発言の際には、一つずつご意見ご質問をお願いしたいと思えます。どなたさまからでも結構ですので、よろしく願いいたします。挙手をお願いいたします。

生家集落の〇〇と言います。ちょっとお尋ねしますが、町で電力会社を立ち上げておられるんですが、あれは今、どうなっておるんでしょうか。今、途中経過かもわからんですが、いろいろいいことを考えてもらって。公共の電気代でも年間2億円くらいかかると、その電力で減らせるように考えたらどうかと。その辺はいかがでしょうか。

大屋町長 詳細は副町長から説明します。逃げるわけじゃないんですが、ちょっとだけ補足させてください。町長に就任させていただいて、今まで町長が自動的になる役がたくさんあったんですが、今はちょっとお断りをさせていただいております。全てが私の思いでなったら良くないということで。

今まで電力会社については、町長が社長だったんですが、今はP P Aということで、国からの補助金とかで各家庭の上に太陽光パネルを付けて発電して、そのお家を買ってもらおうという仕組みで、今、すごく投資をしています。規模が大きすぎるので、専門の人がちゃんと社長をして経営を判断するということにしています。ただ副町長がかわりに役員に入っていますので、副町長の方から説明をさせていただきます。

白須副町長 副町長の白須です。会社というのが、おおなんきらりという株式会社です。先ほど町長も申しましたが、将来的に地域でCO2を発生しないような形で太陽光を使って発電して、それを地域で供給していくところが将来目指す姿です。今、現在で言いますと、P P Aという事業形態をとって、民家の屋根とか工場の屋根の上に太陽光パネルを設置して、そこで発電をして電力をつくっている状況です。

ただ、この電力を売るところまでは軌道に乗ってなくて、今、太陽光パネルを整備しているところで、整備が完了して、一定規模の発電ができるようになると、会社にも収入が入ってきて、そういった電力を皆さんの元に、地域へ供給す

るという形ができてくるんじゃないかと思います。できれば、その際には通常の電気料金より安い値段で利用していただければと考えております。なかなか、今は設備投資を集中的にやっているときで、今現在、会社がしっかりと収益を上げているか言えば、そういう状況ではございませんが、この状況がだんだん改善といたしますか、良くなっていくんだと考えております。

わかりました。ありがとうございました。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。はい、マイクをお持ちします。

矢上高校の〇〇と言います。小中学校の件について、検討中といたしますか、お話をされていたように思うんですけど、ただ今の学校の在り方というか、各地の散らばりで、小学校はいろいろな地域から、その後、中学校に行って、高校に入ってという流れがすごくいいと思うんです。

それは何でかと言うと、いろいろな地域の特色というのが子どもたちに出てきて、その特色によって、中学校、高校でいろいろな人との関わりが増えるという点で、地域の特権というか、いろいろな種類の人ができると思うんです。

それともう一点、もし、統廃合をするということであれば、旧中学校区の形で瑞穂に集めて、市木小学校は瑞穂小学校に統合とか、矢上小学校に統合みたいな形になると思うんですけど、そうなった場合、基本的にバスか親の送迎ということになると思うんです。その時に、子どもたちは遊ぶ時間が少なくなって、交流の時間も減ってしまうんじゃないかと思います。交流の時間が減るとなると、人間関係をつくるのに、なかなか苦手になってしまうことがあるんじゃないかと思っています。僕も小学校のときに、あまり外に出ず一人で遊んでいたりで、今、人間関係に苦労していますし、そういうのは地域にとっても良くないんじゃないかと。

やっぱり正直、最後に言わせてもらおうと、この地域が好きなので、もし小学校がなくなってしまったら、このままどんどん衰退していくと思うんです。矢上や瑞穂に人が集中してしまって、端の方は人が少なくなってしまう。山しか残らないみたいなことになるので、その辺りで一本化はちょっと考えて、もっと明確にお話を聞きたいなという感じです。

大屋町長 ありがとうございます。私自身も地元の保育所、小学校、中学校、高校で。その中で、選挙のときにも統廃合をどう思いますかと聞かれて、もう考えなきゃいけない時期に来ていると思いますと言いました。町としても来年度予算の中で考えたいと思います。

統廃合はしていく方向です。ただ、同じ思いもあって。今ならというのは、数字をあまり出さなかったのは、今なら、今のお子さんの人数とかを考えると、少し余裕をもった統廃合ができるんじゃないかと。その余裕を持ったというのは、邑南町には一つ高校を残したいです。養護学校は別ですが、矢上高校があって、近隣に新庄があったり、島根中央高校がある中で、高校が一つの下には、中学校はできれば2つはほしい。それは、さっき言われた一緒とか、それぞれ違うところで学んだ子が一緒になる必要がある。そうすると、中学校の元にも小学校が1つではなくて、2つか3つということになる。今なら、そういう可能性を考えながらできるんじゃないかなと。教育委員会とかそれぞれ考えてくださいという話をしていて、私は私で、私の考えを先にしゃべっちゃったんですけど、選択肢として可能性があるならと。遊ぶ時間とか人間関係というところで、やはり選択で

きるとか一緒になるということは必要かなと。

その中で悩んでいるのは、また考えてくださいと役場の中で言っているのは、例えば、児童クラブはどこにあるべきか。例えば、あくまでも例えです。仮に、市木が矢上と一緒にになったとき、瑞穂と一緒にになったとき、じゃあ、児童クラブはどこにあるのか、帰ってきてここにあるべきなのか。それはどこの地区でも一緒なので、その児童クラブの在り方というが、遊ぶ時間とか、人間関係なんだと思います。

もう一つ、学校がある土地、学校がなくなる土地、地域の人にすごく支えていただいて、関わっていただく中で今の学校はあります。小学校も中学校も高校もそうです。そういうときの地域はどこにあるのという話なんだと思います。これは、今、町の総合振興計画を来年度以降につくる中で、人口分析もしています。あまり学校と地域を結びつけちゃうと、例えば、日和は保育所も学校もありません。布施もそうです。出羽は保育所があって、学校がない。それぞれがあるので、その辺の分析もしながら。

併せて、コミュニティスクールで地域という話をされましたが、お子さんにとっても地域のことなのか、矢上高校で言うところ、地域でと言ったときに、町内のお子さんはいいけれど、県外のお子さんはどこが地域なのかということもあって、生まれ育った家がある場所、学ぶ場所、それぞれがあると思いますので、その辺りもそれぞれの立場で話をしないと一緒にはできないという思いがあるので、別々でやっていければと思っています。

同じようにこの地域で、市木で育ってきて、今、自分があるのがこの地域のお陰と意思を持たれる方はたくさんあるので、その意思をどうやってこれからもつなげていくかということで、今ならということ。ちょっとこれは先延ばしすると、もう有無を言わず一つしかないの、川本も美郷もそういう形なので、そうじゃない形が今なら議論できるのかなという思いがありますので、少し共有していただければと思っています。すごく思いはよくわかります。ありがとうございます。

○ ありがとうございます。

大賀総務課長 よろしいですか。はい、ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

〇〇といます。森林のものなんですけど、庁公農林というんですかね。一緒に植えたのを親父から聞いたことがあるんですけど、あれはそのままの状態です。これはどうされるんですか。今後、構われることがあるんですか。  
大屋町長 すみません。記憶が定かではないところがあるんですけど、7、8年前に一度、庁公造林して順番に切っていくという時期がきているんですけど、あまりにも木材が安いとか、出すのにお金がかかっている、そういうことですね。

それで、取り扱いを変えて、少し切る時期を延ばしたことがあるんです。それで、今それが続いているので、何もしないわけじゃないです。順番に。ある意味、今、木の値段が高いということと、庁公造林がそうだと思うんです。県の人曰く、島根県にはちょうどいい木がたくさんあるみたい。ちょっと遅れていけば、そうして伸ばしていけるので、価値が上がったら切り安いという話をされたので、順番に。ただ、森林組合にも人がいないので、なかなか予算は他のことも含めてくるんですけど、予算どおりに事業ができない現実もあります。そういう意味で人を確保するというのは大きな課題なので、そういうことも含めながら、させてい

ただければと思います。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

市木の自治会長の ○です。よろしくをお願いします。実は、市木でこの春からちょっと準備して、市木の課題とか問題点とかを出してもらって、自治会で解決できるものとか、できないものとか、いろいろありますので、解決できないものについては、場合によっては前回も町にお願いしたことがあるんですけども。そんな感じで、市木には町議がおりませんので、自治会なんかで、そういう部分をちょっと主な意見を吸収して、内容によって町とか県の方をお願いしようと思っていますので、今後ともよろしくお願ひしたいというのが、一点と。

先ほどから統廃合の話が出ているんですけども、別に町長をよいしょするわけじゃないんですけど、市木でもさっきの課題とかそういう中で、市木小学校を残してほしいという意見もよくありまして。実は今まで自治会主体でやっているんですけども、保育園、小学校、中学校のPTA会長さんと意見交換したり。先般、各種団体長とか集落長と意見交換したんですが、やっぱり残してほしいというのがあって。町長の言われることもよくわかりますし、皆さんが言われるのもよくわかるので。これは要望なんですけど、市木全体の意見が集約されたわけではないんですが、中途半端な状況なんですけど、8割はだいたい決まっているかなと。集約したと思うんですが、その時点で別なところで町長と意見交換させてもらいたいと思うんですよね。よろしくお願ひしたいと思います。

大屋町長 ありがとうございます。町議さんがおられようとおられまいと、それぞれの自治会や地域で要望書を上げてきていただいています。おそらくきちんと町としても返していただいていると思います。返す中で、これでいいかというのが町長決裁できます。

独り言ではないんですが、職員さん同士でチェックする中で、ずっとこの返事なんだから、早く解決しないといけないんじゃないですかというメモ書きがくるときもあります。過去の経緯もあって、非常にお答えが十分にできていなくて、毎回要望されて、毎回同じ答えだとつまんなくなります。ある程度責任を持って、職員の中でもいろいろな問題意識を持っていただいておりますので、進められこと解決できることはしていきたいと思いますが、答えがダメだったからと言って、あきらめずに、どこまでも上げてください。皆で問題意識を持つのは大事だし、非常に地域課題として認識できるので、非常に助かります。

学校の統廃合の話ですが、中身はふれませんが、先ほどもいろいろな話をしましたので、他の地域でも例えばテーマを絞って座談会はどうですかと言われてました。確かに、統廃合とか学校の在り方とか、テーマを絞って、またそれぞれの地域の話をするのも大事だと思いますし、統廃合事態は非常に大きな問題ですので、改めてこちらが時期を決めるのが、それぞれの公民館単位で時期を決められてはどうですかというのもあるかもしれませんが。意見交換をさせていただければと思います。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

大屋町長 少ししゃべります。意外と場所によっては、こんなことを聞くのもと言われる方もありますが、町長でこちらの立場にならせていただくと、意外と気がつかなくなったり、今までは意識していたのが見えなくなるとか、いろいろあります。日常的に困っていることだとか、ここは良くなるといいのにとか、町がこうしてくれるともっと良くなるんじゃないのということを一言でも言っていた

くと、他の場所でも同じ声が出ていたりして、こちらの認識も変わりますので、一言でも、疑問なことでも、いいことでも。

すみません、市木の ○です。不満や文句ではないんですが、先ほど教育長さんがコミュニティスクールの説明をなさったんですが、現在ある学校の在り方と、どう違うのかがちょっとわからなくて。

私は学校司書で学校に勤めさせてもらって学校のいろいろな深いところまで入って、学校ってこんなことを会議するんだとか、そういうのを見てきた中で、これがどういうふうに、この新しいものが、今ある学校と大きな違いがちょっとわからなくて、すごく簡単に言ってもらったら嬉しいです。

大橋教育長 ありがとうございます。説明不足で申し訳ありません。現在の学校は、学校のいろいろな取り組みについて、地域の方に学校にお入りいただいて評価はさせていただいております。これは法律でせざるを得ないということです。

一方で、これは法律どうこうではないです。基本的に学校が、地域の皆さんに向けて協力要請といいますか、こういうことをお願いできないだろうかということをおっしゃっていただいて協力体制ができています。このコミュニティスクールの一番大きなポイントは、学校の運営を地域と共に考えていくということです。決して校長先生だけの思いで学校が動くのではなく、地域の思いもしっかりとぶつけながら、共に共通の子ども像を描きながら取り組みをしていく。その中で、いろいろな場面が出てくると思います。

まずは共通の思いを双方が理解して、それを学校としていろいろな取り組みをする場合と、地域、公民館も含めて役割として地域がそれを担っていく場合と、また地域と学校が共に担っていく場合と、いろいろな関係性をつくりながら子どもを中心に据えていくというのが、一つ大きな目的だろうかと思っています。

発端は、地域との関係性が希薄であるというようなところからも発想ではあります。土壌はしっかりと邑南町にはあるかと思っておりますが、協働という同じ立場というのをしっかりと制度化していくというのがコミュニティスクールということでもあります。

表情を拝見しますと、なかなかまだご理解いただけないかなと思っております。もう少し私も勉強してお伝えさせていただきたいと思っております。以上です。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

思うんですが、この邑南町の良さというんでしょうか、これを全国的にPRしてもらって、広めてもらいたいと思うんですが。さくらほろほろの歌もですが、何年か前に線香の商業で流れておったんです。線香でもいいことはないんですが、日本香堂でしょうか、歌が流れて線香の宣伝があつて。何か寂しいような気もして。町の何か、ちょっと元気が出るかなと思って。

今、思うんですが、谷龍介が歌っている暮れに帰ろうかという歌が流行っているんです。邑南町でも帰ろうかというような歌を吉幾三にでもつくってもらって。それから全国的に宣伝してもらえればと。ヒットすれば、邑南町に帰ってみようかとか、邑南町に住んでみようかなとか。

しっかり病院もあるし、広島も浜田も、江津も大田も三次も高田もちょっと1時間から1時間半くらいで高速でなくても行かれるし。いい町だかということになりませんかと思うんですが。何かの拍子にでも。子どもさん連れで町内に住んでもらって、子育て日本一の町ということでやられておるんでね。何かいいことがあれば、PRしてもらって。

いい悪いはわかりませんが、米にしても毎日食べておれば、こがあなもんだなと思って食べよりますが、他所へ行ったときには邑南町の米は、こがあにうまかったんかと思うたりすることもありますし。何かそういう機会があれば、PRしてUターンしてもらうなり、来てもらうことがあれば人口も増えますし、いいと思うんです。どこかで邑南町にという人がおられれば、いい町ですからぜひとも来てくださいと言われていいような気がしますし。勝手にいろいろ考えておるんです。何か町のいいところをPRして一人でも人口が増えれば、活気づくと思うんです。

もうちょっと長くなりますが、14、15年前にある人に言ったんですが、「そっちの息子さんに帰ってもらえればいいことにならんか」と言ったら、「この方へ帰ってきてもらえば給料は安いし、米をつくっても銭にならんし、帰らんでもええ」と言っておるんだと言えたんです。それで、親が帰ってこんでもええと言えれば、なかなか帰りづらいことでもありますし。

ちょっと年末に寄ってみたんですけど、息子さんが帰っておられて、お父さんはと言ったら、春までどここの施設で見てもらうんだと言っておらんからと言われて。旅行したり、いい思い出があるから、またときどきは話をしに寄りよったんだが、それが残念ですと言って。あんたはこっちに帰りんさらんか、帰ってきんさいと言ったら、他所のことではありますかね、言ってみたんです。今は中学校の子どもがおるし、ここへ帰っても、まあと言いんさって。何かのきっかけで帰ってみようかということになればね、子どもさんが一人でも帰ればいいと思うんですがね。親が帰ってこんでもいいと言えれば、その子の孫になるのも。お父さん、家の方もきれいに処分しておかんと、構わりやせんけいのというようなことで、それでも大朝の方にいい話も出て家も売ったんだということですね。家も田も山も畑も農機具一式と軽トラまで、一切合切売ったんでね。それは良かったんじゃないと言ったんですけど。それだが、涙が出たと言いましたかね。そこに来る人が子どもを連れてこられて、それから田んぼもやったことはないんだが、農協や近所に習って米をつくらうと思うんですと言ってね。家は改良して、住むらしいんですよ。だけど、それはそれで良かったんじゃないかと言って。墓ほどは、置いといてくれと言ったんだが、あれもきれいにしたからないわと言って。

ええ言えれば、ええこともあるんだが、なかなか、そんなとうのことにいかんことが多いものでね、何かいい町のPRがあればね、いろいろなところで宣伝してもらって、1人でも2人でも邑南町へUターンしてもらうなり、他所から住んでもらうなりしてもらえればね。住民も元気が出ると思うんですよ。他所の子でも、小学校や保育園でもおればね、その子にでも。年寄りから見ても元気がでるんです。子どもがおればね。我々のような賞味期限切れのような者ばかりでは元気が出ないですけど、子どもがおればね、もうちょっと踏ん張れるということになればと思って。

すみません、長々と言いました。いい場所にあるからね、この邑南町は、島根の中心でね。アピールしてもらって、できるだけ帰ってきてもらうようにしてもらったらね。他所からでもね、住んでもらえるようにしてもらえればと思っっているようなことです。すみません、いろいろと長々と。

大屋町長 ありがとうございます。一般的に、人が減っていくのは寂しいし、耕作放棄地も今までは誰かがつくっていたのが、つくられなくなる。自分ができるわけじゃないんだけど、そういう景色を見るのが嫌だという声もたくさん聞

きます。人口問題もそういうことでも、皆さんと一緒に考えていきたいんですが。

先ほどと一緒に、邑南町で生まれ育ったお子さんにはこの町を支えていただきたいし、帰ってきて働いてほしいと思います。それを今日は高校生がおられるけど、私たちは君に期待しているんだよというのを堂々と言うのは、うれしいのか、プレッシャーなのか、いろいろだと思います。ただ、帰ってこなくてもいいよ、この町には。というのは寂しいだろうと、選択肢として、この町に帰ってきてもいいし、近いところにいてもいいしという中で、やっぱりこの町でと、私たちは思っていますというのは伝えた方がいいのかなと思っています。この町のいいところをもっとアピールしなきゃいけないんですけど、その点と点がいっぱいある中を繋げられない町の責任だと思います。学校にしても、少し負担が増えても残したいのがいいのかという話をしたとおり、まずきちんと高校まで学校があるというのは、いいことだと思っています。

邑智病院も今、山口医院長というちょっと年は多いですが、小児科の先生なんですけど、公立病院が地域にある意味は、産婦人科と小児科がなければ、町に貢献できない。だからきちんと先生を確保していくんだという思いを持っておられます。

そういう意味で、この町の施設は、例えばお店も、アベルとかプラザとか、元気館の前のフーズフーズにも行くんですけど、他県のドラックストアみたいな施設はいなくて、地元が頑張っている。そういういい点がたくさんあるので、それをきちんと支えていくということもしなきゃいけない。

今日、邑智郡広域財団の会議があって、先月、ふるさとフェアを広島でしたときにアンケート結果を見せていただいたんです。まだ、きちんと分析していませんけど、瑞穂ハイランドや断魚溪や、道の駅もそうです。もので言うと、神紅とか、きちんと認識されているんですけど、邑南町とつながっているわけじゃない。いい点をつなげてしっかりアピールしていきたいですし、そのアピールの仕方まず、広島、松江、出雲あたりの近場からと思っています。邑南町が有名になるか何かすると、外の人から邑南町を見たよと言われるのもうれしいですし、いろいろつながりになります。

町としても、ふるさと納税はちょっと、個人はどこに的を絞るかということもあるんですけど、企業版のふるさと納税であれば、企業から頂ける単位も大きいので、10万円以上なので、企業に対するPRも。邑南町に関わる会社は、広島、松江、出雲にはたくさんありますので、そういうところに少し地道な形ですが、しっかりアピールしながら、住んでいい場所というのもつなげていながら、皆さんにとっていきがいであるとか、楽しみであるとか、この町はもうやれんと思われるないように町としても務めていきたいと思っています。

いい点がたくさんあるのはわかっているので、それを今度は、つなげていくのは町の役割だと思います。また、お子さんたちにどこまで期待していいのか。困るよね。

誰に期待をかけていいのかどうかは、僕としてもめっちゃくちゃ嬉しくて、今も大声で叫びまわりたいくらい嬉しいです。学校でも、邑南町に将来残りたいとか、進学の話とかもするんですけど、県外に出たら、戻るつもりはあまりないという人が、やっぱり多いのかなと。就職するときに、ここに行きたいという会社とか、大きいネームバリューのある会社とかがあってもいいかなと思います。

企業誘致となると、さっき言ったみたいなネームバリューの大きい大企業は難

しいと思うので、観光地としての魅力みたいなものもPRしていけるんじゃないかと、今、ちょっと思います。

ゲームが今、子どもたちみんな好きで、学校でも流行っているゲームとかもあるんですけど、ちょっと前にゲームが流行ったじゃないですか。あれでやるんですけど、地域は企業と連携をして、ここがゲーム特有のものがある場所ですという所が結構あります。大阪の梅田のあたりもそれでちょっと有名というか。ちょっとした界限では有名だったりするので、そういうゲームとか、アミューズメントというか、娯楽ですね。それとの連携も一つの手として有りなんじゃないかなと思います。

大屋町長 ありがとうございます。私たちが思って、これがいい、この方法が皆にというよりは、ある意味、若い世代やゲームをする人とか、これが好きな人とか、全国から情報発信して、全国から来られるので。あるコアな、ピンポイントでもいいのかなと思っています。さっき言われたようなゲームであるとかも必要かなと思います。

それから、うれしいと言っていたいてありがとうございます。なかなか、大人がいいと思って、自分の子どもたちに負担をかけたくないと、家を処分したり、墓を閉まったりするんだけど、子どもから見ると、大人になって自分のルーツがわからない。それはさみしいということも聞くので、自分たちがいいと思っていることが本当にいいかどうかは、やはり全体で。

ちょっと雑談になってすみません。来年度以降に、邑南町の総合振興計画をつくりますという中で、若い人の意見を聞くべきだという声がたくさん出ています。高校生の方にも聞きたいけど、どうやって聞こうかと。こんなに立派に答えてもらっているし、極力若い世代からと思っています。大企業に入るのは無理だと言われたんですが、実は最近、チャンスがたくさんあって、その理由がどこもそうなんですけど、全国異動があまり好まれない。

そうすると、昔はダメだったような有名な大企業であっても、地方に行っていただけの人を地方で採用する。東京本所で大手銀行だとか、大規模ないろいろな会社が広島や島根の出身者を採用して、広島島根に配置するという時代みたいなので、そういう意味では、表現は悪いですが、大きな会社に入っても、都会に出ても、近くで勤めるという時代が来たので、それも選択肢かなと思っています。

またそういう情報を伝えながら、極力、邑南町に関わっていただけたらと思いますし、私たちがいいと思うことが必ずしも次の世代にもいいわけじゃないと思いますので、その声を聞きながら進めていければと思います。ありがとうございます。

町営住宅のことについて、お尋ねというかお願いをさせていただきたいと思います。我が家の後ろに町営住宅が8戸あると思います。今、5戸が空いております。子どもさんの声が聞こえておりましたが、最近子どもさんもおられなくて、高齢者の方が3戸に入っておられるんですが、その住宅にいたいと言われた方も、収入がよくなったので、いれないということで出られました。とてもさみしく思いますし、周辺も荒れますし、空き家にしておかれるなら、何か規定はあると思いますが、短期で今からこの地区に、今から工事に来られる人もおられるんじゃないかと思いますが、そういう人が使われるというようなことはできないんですよ。

長期におられる人は困られると思うんですが、短期間で入られるような人に貸

して上げられれば。家も荒れますし、周辺も荒れて、若い人が入られる若者定住住宅ですか、それがありますけど、そこも空いているような状況です。なんとか、収入に関係なく入りたい人に入らせてあげるといえることができればと思ひまして、お願いさせていただきます。

大屋町長 ありがとうございます。すごくごもつともなことだと思います。邑南町が今困っているのは、町営住宅はたくさんあっても空いている。若い人たちは住みたいけど住む場所がない。ちょっと、おかしな話なんですけど、それは先ほど言っていたとおり、町営住宅は収入や所得の基準があるので、ある一定を超える方は入れないし、家賃が高くなる。その基準があつて、以前のように結婚したから町営住宅へということではできなくて、若者定住住宅にしてもらえないのです。

今後取り組んでいくことの最初に財政再建と書いてある〇の4つ目なんですけど、公営住宅の運用見直しと書いています。ご希望どおりの場所でそうなるかは別なんですけど、ある程度、国からの補助金も返し終わって、町として管理できそうなところ、基準を変えてもよさそうなところは、試験的に各地域くらいで一か所でも所得基準関係なしにどうかということできないかなと思ひています。それが運用の見直しです。町営住宅を入りやすく、それはあくまでも試験的に限られたことしかできませんが、そういうことであるとどうなるかということを試してみればと思ひています。

お話の意味のよくわかつて、すごくもどかしいところもあるんですけど、思いに近づければと思ひます。ありがとうございました。

小武家城集落の行政連絡員をしています と申します。空き家があるんですけど、今屋根も落ちるような状態の家屋があるんですけど、これは中に動物が入っておるんかどうか。ちょっと屋根が落ちそうなので、危なくて入れないんですけど、これらは行政でどうかされておるんでしょうか。持ち主との連絡とか。うちがすればいいんだろうけど、なかなか連絡する方法もわからないので、電話番号なんかも聞くことができないので。

大屋町長 ちょっと現状をまず話をさせてください。

白須副町長 現状なんですけど、そういった空き家が増えてきて管理の行き届かないものもたくさん見られるようになってます。役場も空き家対策という仕事をやる部署がありまして、いろいろな対策のことを話をしたり、実際に対策したりしています。

それで、よくあるのが、危険な空き家を役場が解体をして、その費用を所有者の方に請求するという仕組みはあるんですけど、そこまでいくには、いろいろなことをクリアしていかないといけないので、たどり着くのはなかなか難しいところもあるんですけど。

まずは、やっぱり所有者の方にお話をして、対策をしてもらうことが必要になってきます。危険な空き家だと認定すれば所有者の調査などを行政ができるんですけど。通学路にあるとか、そういう空き家なら危険空き家として調査もできるんですけど、そうでない空き家は、なかなかできないところなんです。

それで、ただ非常にお困りですので、場所をちょっと教えていただければ、ちょっと役場でも場所を確認して、どういったことが役場でできるのか、あるいはどういふことを地域にアドバイスできるのかという説明をさせていただければと思ひます。また、会議が終わったあと、ちょっと教えていただければと思ひます

ので。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方がいいでしょうか。

コミュニティセンターという名前が出てきて、話題になったんですけど。私もよくわからないんです。コミュニティがつくと、なかなか難しいんです。このコミュニティスクールも難しいです。コミュニティセンターは頭の中では、1公民館に複数自治会があるところをまとめるための会みたいのように感じて、市木には関係ないという理解でおるんですが、そういうものでいいのでしょうか。今、どうなっているのか、よくわからないんですけど。

白須副町長 コミュニティの在り方検討会というのも開いて、町で構想をつくりました。基本的には、市木は1地区に1公民館なんですが、想定しているのは、一つの公民館に複数の自治会があるようなところを想定して、そういったところになが、自治会それぞれに同じような組織があって、成り手も少なくなっていることで、それを一つにすれば役職も整理できるのではないかとということで、そういう動きを進めています。

それで一応、公民館単位でそういう動きを進めておりまして。ここは最初から、1公民館で1自治会でありますので、大きく今の自治会を変えるということは必要ないと思います。ですから、形としては今のままでいいと思います。ただ、コミュニティセンターという言葉を使うのが、公民館の中にそういったコミュニティの組織をつくる場合、今ですと公民館ですので、なかなか制度上、使いにくい、使いづらいというところがあるので、今からの公民館はだんだんコミュニティセンターとしての機能を中心に考えていくべきじゃないかということも、その構想の中に含まれていますので、もし市木の方で考えていただくのであれば、そういった公民館をコミュニティセンターとして利用していく、地域づくりの中核として利用していく。その中に、社会教育という機能も一部残すというような形でこの施設の使い方を、地域で使いやすいように考えていただければと思います。

これといった決まった形はありませんので、その地域地域で、使いやすい、あるいは、組織として継続しやすい形を考えていただくことが大事だと思えます。回りくどい説明の仕方で分かりにくかったかもしれませんが。

市木は、昔、公民館を中心に動いていたんですよ。いろいろなことを。そのような状態にするということですか。公民館を中心に運動会とかいろいろやっていたんですけど、これをまた元に戻すということですか。

白須副町長 今あるやり方がベストなら、今の形を継続してもらえればと思います。いろいろな問題が出てきたときに、一つの方法として新しい形を考えていければと思います。基本は、皆さんのやりやすい形でこの地域を維持していただければと思います。

大賀総務課長 はい、どうぞ。

と申します。よろしく申し上げます。先ほど町長さんから、職員の副業ということがありました。その後に、地域コミュニティのことにも関連して、役を担う人材がいなのが現状だろうと思います。そうすると、地域コミュニティになると、そのセンター長が一人決まると、誰かの役はいらなくなるということもあろうかと思えます。役減らしをするためにも、その方がいいと思えますし、今の職員の副業ということで地域に関心をもつということが書いてありますが、関心を持ってくれると地域に根付いてもらおうと思えます。そうすると、その中が今のように、地域コミュニティのセンター長なり、いろいろな役を担う状態にな

ってきますが。この副業という意味は、ほとんどが地元で職員がおりますが、若いんですよね、うちのところは。地区外におられますので、それはまた難しいということになれば、町内の誰でも構いませんので、そういう方を送っていただいて、そこで今のような関心をもって力を入れてもらって、地域を覚えてもらうということをしていかないと、今の役、地域でいう集金の役とかいろいろありますけど、その役が減ってくれば、かなり年寄りも楽になるので、その辺を考えていただければありがたいと思うんですが、どうでしょうか。

大屋町長 ありがとうございます。まず、町で職員の方が副業してもいいですよと言っておきながら、仕事が目いっぱい残業もあるのに、そんな余裕はないと言われてはいけないので、財政改革というのはある意味、事務量も効率化して、職員の方にもまずは残業がないようにした中で、地域にも関心を持ってもらえらると思います。

その中で、どこまでできるとか、あんまり地域のことを率先してやりなさいとか押し付けちゃいけないみたいなので、気持ちはあれなんです。

あとは、今、町外から来られている、邑南町以外の出身者が邑南町に勤めていただいている、移住してきたという方も多いです。なので、役場に行っても、支所に行っても知らない人ばかりだしと言われるのは、世代が違うのと、元々この町ではない方もおられます。そういう方にも、町を覚えてもらうという意味では、地域の中に入るといえるのは大事なかなと思います。

コミュニティの再編も、一方で制度に乗れば、センター長にも予算が出て、外部の人を雇えることもあるんです。そういう意味でも、制度をうまく使っただけだと。ただ、人がいなければ何もできないので、お金があっても雇う人がいないというのは困るので。役場の職員も協力しやすいようにということです。

元々、地域の役は大変だからという話で始まったこともあって、十分、その辺も考えながら進めさせてください。またいろいろな相談をさせていただければと思います。私も副町長の地域のことに關しては、ちょっと自信なさそうにしゃべるのは、それぞれの公民館単位とか地域で生い立ちが違うので、一律にこうした方がいいですと言えないところがあるので。また相談しながらという言い方しているのは、ご理解いただければと思います。ありがとうございます。

大賀総務課長 よろしいですか。はい、ありがとうございます。皆さんからたくさんご意見ご質問をいただきました。閉会を8時ということで最初に説明させていただきました。間もなく8時になりますので、この辺りで閉会とさせていただきます。最後に白須副町長からごあいさつをさせていただきます。

### 3. 副町長あいさつ

本日は、寒い中集まっていたいただきまして、様々なご意見ご質問をいただきありがとうございます。時間が限られておりまして、質問をまだまだされたい方もおられると思いますが、町長が冒頭に言いました町民への手紙で、ぜひまたご意見いただければと思います。〇〇さん、ぜひこれを矢上高校でも広めていただいて、若い方の意見を町長に届けてもらえればと思います。よろしくお祈いします。

財政再建というのを一つの柱として、予算編成を進めております。今、ちょうど作業中ですが、新年度になりますと、新しい予算の元に、またいろいろな仕事をしていくわけですが、財政再建ということでもいろいろな見直しも現在してお

りまして、皆さん方の生活や事業活動に様々な面で影響がある可能性もございます。しっかりと、こういう理由でこうなるんだということを説明させていただこうと思いますので、その際にはしっかりとまた意見を頂戴いただければと思います。またその意見を今後の事業、あるいは予算編成の参考にさせていただきますので、よろしくをお願いします。

また、小中学校の在り方とか、地域コミュニティの在り方、そういったことも今、検討を進めております。皆さんをしっかりと情報共有しながら、皆さんと一緒に協働の立場で進めていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、気温も下がって凍結していると思いますので、交通安全に十分に気を付けて事故のないようにお帰りいただきたいと思います。本日は、長時間にわたりまして、ご意見ご質問いただきまして、ありがとうございます。以上をもちまして、簡単ではございますが、閉会のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、以上をもちまして令和6年度市木地区町政座談会を閉会とさせていただきます。皆さま、ありがとうございました。